

仕 様 書

- 1 業務委託名 令和7年度由良川流域樋門・樋管設備点検整備業務
- 2 業務番号 道河第 106 号
- 3 業務場所 福知山市 観音寺ほか 地内
- 4 業務期間 契約締結日 から 令和8年3月31日 まで
- 5 業務概要 樋門設備点検整備・・・4基（4門）

特記仕様書

第1条 適用

- 1 本業務は、「機械設備点検・整備共通仕様書（総合政策局 公共事業企画調整課）」（以下「共通仕様書」という。）を準用する。
- 2 この特記仕様書は、共通仕様書でいう特記仕様書で、本点検整備業務の履行に適用する。
- 3 本業務の履行に当たっては、本仕様書によるほか、以下によるものとし、一般的事項は共通仕様書による。なお、本仕様書で定めた事項は、共通仕様書に優先するものとする。

（１）機械工事共通仕様書（案）	国土交通省
（２）機械工事施工管理基準（案）	国土交通省
（３）ダム・堰施設技術基準（案）	国土交通省
（４）河川用ゲート設備点検・整備標準要領（案）	国土交通省

第2条 業務概要

- 1 業務の目的
本業務は、福知山市が管理する樋門、樋管設備の機能維持を目的として、設備全般の点検整備を行うものである。
- 2 対象設備の範囲・仕様
業務の範囲及び仕様は、別表１「点検整備対象設備一覧表」に示す設備における各機器の点検及び整備を行うものとする。
- 3 点検の実施時期
 - ア 設備の点検回数は１回とし、工期内に完了すること。
 - イ 設備の管理運転は、全開、全閉操作を行うものとする。なお、水位状況等により、周辺への影響が予想される場合については、監督職員と協議の上、その指示に従うものとする。

第3条 共通仕様書に対する特記事項は、次の通りとする。

第1章 総則

第1節 総則

1－1－5 点検整備業務計画書

請負者は、共通仕様書によるほか、以下の事項について記載を行うものとする。

- (1) 点検整備に関する整備要領について詳細に記載するものとする。
- (2) 施設の操作に伴う作業等を実施する場合の作業手順や異常放流を防止するための安全対策（電源管理、流水管理等の具体的な対策等）

1-1-9 管理技術者

- 1 共通仕様書 1-1-9 で示す「業務の履行に関し、技術上の管理をつかさどるに必要な知識と経験を有する技術者」とは、次の通りとする。

- (1) 機械工学に関する学科を卒業後、高校は5年以上、大学・短大・高専は3年以上の鋼構造物（水門扉）点検整備業務の実務経験を有する者

- (2) これと同等の技量を有する者

- ア 技術士（技術士法による第二次試験の内、技術部門を建設部門（選択科目を「鋼構造及びコンクリート」又は「河川、砂防及び海岸・海洋」とするものに合格した者）の資格を有する者

- イ 鋼構造物（水門扉）点検整備業務に10年以上の実務経験を有する者

- 2 現場における責任の自覚と意識の高揚並びに現場技術員及び一般住民から見た責任者の明確化を目的として、管理技術者は、腕章を腕の見やすいところに着用するものとする。腕章の仕様は、監督職員と協議するものとする。

1-1-15 設計図書の変更

設計変更については、共通仕様書 1-1-15 によるものとするが、請負者からの発議に基づく設計変更の内、設計図書に示した目的及び機能が同等と監督職員が判断し、承諾した仕様又は履行方法については、請負代金の変更は行わないものとする。この場合、監督職員は必要に応じ、請負者に対し、これらの技術的証明又は必要な書類を求め、技術打ち合わせを行うものとする。

1-1-21 点検整備業務報告書

点検の結果、不良・不具合箇所があった場合は、その状況・措置及び注意事項を記録し、写真添付の上、報告書を作成し、速やかに提出するものとする。

1-1-22 業務履行写真

本業務の履行に当たっては、「機械工事施工管理基準（案）」に基づいて行うものとするが、不具合箇所等については、小黑板抜きの写真も撮影するものとする。

1-1-25 履行管理

- 1 本業務の履行管理については、「機械工事施工管理基準（案）」、当該設備の完成図書及び点検要領等に即した管理を行うものとし、当該履行管理計画を点検整備業務計画

書に記載するものとする。

- 2 立会を要する項目は、別途監督職員の指示によるものとする。

1-1-26 業務中の安全確保

- 1 本業務の履行に際し、現場に即した安全・訓練等について、業務着手後原則として作業者全員参加により安全・訓練等を実施するものとする。
- 2 履行に先立ち作成する点検整備業務計画書に本業務内容に応じた安全・訓練等の具体的な計画を作成し、監督職員に提出するものとする。
- 3 安全・訓練等の実施状況を履行報告に記録し、報告するものとする。

1-1-35 提出書類

提出図書の提出部数及び時期は、次の通りとする。

- | | |
|------------------|---------------|
| 1 点検整備業務計画書 | 2 部 契約後速やかに |
| 2 点検整備業務報告書 | 2 部 点検実施後速やかに |
| 3 不良箇所及び改善箇所報告書 | 3 部 点検実施後速やかに |
| 4 業務履行写真 | 2 部 業務完了時 |
| 5 その他監督職員が指示したもの | 2 部 その都度 |

1-1-38 機械設備（又は施設）の操作

- 1 請負者は、業務の履行に伴い、施設の運転・操作を必要とする場合は、事前に監督職員の承認を受けるものとする。なお、運転・操作終了時又は緊急時においては、設備を点検前の状態に戻すこととする。但し、点検前の状態に戻すことが設備の安全上、機能上好ましくない場合は、監督職員と協議するものとする。
- 2 前項の運転操作に必要な燃料及び電力に要する費用は発注者の負担とする。

第3章 共通履行

第1節 点検

3-1-3 点検作業

- 1 点検については、点検整備業務計画書を作成し、発注者の承諾を得るものとする。
- 2 点検項目は、ゲート点検・整備要領（案）の各項目とする。なお、同表に記載されていない項目であっても、機能確認上当然必要と思われるものについては、これを充足するものとする。
- 3 共通仕様書3-1-3の第2項で示す点検実施者に関し、「当該機械設備（又は施設）の機能、構造等に精通し、かつ点検に十分な知識と経験を有するもの」を満足させるため、以下の者を配置するものとする。
 - 1) 鋼構造物（水門扉）点検整備業務に3年以上の実務経験を有する者

1名以上

2) 電気主任技術者もしくは電気工事士

1名以上

なお、1)については、管理技術者以外の人員とする。また、2)については、管理技術者が保有している場合又は1)の該当者が保有している場合でも可とする。

第2節 整備

3-2-3 整備作業

1 本業務で行う整備内容は、次の通りとする。

設備名	整備箇所	整備内容	数量
全設備	各装置等	清掃、グリスアップ、給油	1式
	点検結果の不良箇所	調整又は予備品等を用いて簡単に行える整備	1式

2 点検の結果、整備を追加指示する場合がある。なお、追加指示した場合は、設計変更の対象とする。

3 整備に必要な器具及び部品、材料等は、次項の場合を除き、請負者の負担とする。

4 設備に備え付けの特殊工具及び予備品等を使用する場合は、監督職員立会の上、受け渡しを行うものとする。

5 材料は、監督職員の指示する規格品又は同等品以上とする。

第4章 水門設備

第1節 通則

4-1-3 点検要領

点検要領は、共通仕様書によるほか、別の定める「河川用ゲート設備点検・整備標準要領（案） 国土交通省」に基づき、当該施設に応じた点検要領書を点検整備業務計画書に記載するものとする。